

(仮称) 図書館中部館整備工事基本設計委託業務委託候補者選定公募型プロポーザル審査に係る講評について

(仮称) 図書館中部館整備工事基本設計委託業務
委託候補者選定公募型プロポーザル審査会
会長 滋賀県立大学 准教授 金子 尚志

旧ひこね燦ばれすは、1991年に竣工した、多目的ホールや教養文化室などを含む施設です。

今回の計画は、この施設を改修して「彦根市立図書館（仮称）中部館」に整備するものです。

敷地は、JR南彦根駅に近く、彦根市立地適正化計画において、駅を中心とした都市機能誘導区域内にあります。

2025年に滋賀県で行われる国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会に向けて整備された彦根市スポーツ・文化交流センターをはじめとして、福満公園、彦根市立城南小学校、彦根市消防本部などの公共施設や商業施設、城南保育園などの子育て施設、彦根中央病院などの医療施設のほか、福祉施設等が集積する利便性の高い位置にあります。

また、彦根市スポーツ・文化交流センター側からだけでなく、北側のくすのき通りの双方からアプローチできることもこの敷地の大きな特徴です。

第一次審査においては、応募のあった8者について、組織体制、実績等に関する所定の項目に対する評点を、第一次審査評価確認シートに基づき事務局で作成しました。

一方、各委員は、各者から提出された技術提案書を、事前に読み込んで審査会に臨みました。

第二次審査においては、提案を求めた課題に即した項目について、第二次審査評価表を用意しました。

ヒアリング後、各者の評価すべき点、課題点等について、各委員が意見を述べ

合い、案の見落とし、見誤りがないようにするとともに、提案の理解に努めながら検討を進め、採点を実施しました。

敷地・地域の読み方、これからの図書館のあり方、管理側としての図書館の機能性、改修計画としてのデザイン性などがポイントになりました。

最優秀案と次点案が僅差であったことから、事務局、各委員において再度の確認の上、全会一致でD社を選定しました。

最優秀案は、彦根屏風をイメージした木製・CLTのルーバーによって既存の施設を大きく包むような構成で、現代の課題でもある木質化を高度に実現しています。

改修計画でありながら、既存建物の印象を大きく変える力強い提案です。

くすのき通り側のデザインや平面計画は検討の余地があるものの、十分にポテンシャルを備えた提案であることが評価されました。

次点案は、減築、増築を統合した計画で、環境的配慮とともに周囲との関係を創り、多様な居場所を実現する提案は、現代の図書館に求められる要件だけでなく、管理側としての図書館の計画も丁寧に検討されていた点が評価されました。

提案された抽象的な建築イメージは、創造的でありながら具体的な姿がやや捉えにくい点がありました。

最後に、応募いただいた各者においては、短い時間での提案の制作、旧ひこね燦ばれすを改修した「(仮称) 中部館」に寄せる関係者の想いを受け止め、これまで蓄えられた経験、実績に基づいて、創意溢れたデザイン性の高い提案をいただいたことに、審査に関わった者一同、感謝と敬意を表します。